

モヘヤを混用した生地は、特有の張りや光沢、シャリ感などが好まれ、夏物の紳士用スーツ地などに使われていますが、摩擦や折り曲げなどに対する強度に欠ける欠点があります。

今回は、モヘヤを混用したズボンに発生しやすい破損事故を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

衣類の状態

ズボン後ろ膝付近の折り目部分に破損やキズが生じている。利用者は、仕上時の強いプレスが原因になっているのではないかと考えている。

特に折り目部分は、着用中の摩擦を受けやすいことが原因として挙げられる。

事故の防止対策

自然発生的な現象のため、抜本的な防止対策はないが、硬くて張りやシャリ感のある生地を使ったズボンへの強いプレスやシロセツト加工などの折り目加工は避けることが望ましい。

原因

着用やプレスが繰り返されることにより、生地が徐々に磨耗して自然発生的な破損が生じたもの。

モヘヤ

モヘヤはアンゴラ山羊の毛。生後6〜18ヶ月の毛はキッドモヘヤと呼ばれ、最高級品とされている。他の獣毛に比べ張りや光沢があり、シャリ感のある梳毛^{そもう}服地や毛足の長いシャギー生地などに適している。繊維は外層が硬く、内層が柔らかい構造になっているため摩擦や折り曲げ、引き裂きなどの強度に欠ける欠点がある。

モヘヤを使用しているも「毛」と表示されているだけの場合もあるため、硬くて張りやシャリ感のある生地を使ったズボン、シャギーな折り目のついたズボンなどについては、受付時に折り目部分をチェックし、生地が薄くなっている、摩擦などがあれば、破損する可能性があることを利用者に説明して了解を得ることが必要。また、組成表示以外に裾やウエ

獣毛

ストの内側部分の生地などにモヘヤの使用を表示していることもある。

羊以外の動物からとれる毛を総称して獣毛と呼ぶ。衣料用としては山羊類、らくだ類を中心に約15種類。獣毛には、羊毛のようにはつきりとしたうろこ^{けんしゆく}（繊維のちぢれ）がないため、その製品は表面が滑らかで光沢がある反面、繊維同士が絡み合う縮充性が少ないために組織がルーズなものほど毛羽立ち、脱毛しやすいなどの特性がある。

なお、獣毛のうちアンゴラ（うさぎ）、カシミア、モヘヤ、らくだ・キヤメル、アルパカは、組成表示に使用することができる指定用語になっている。



モヘヤ混用の紳士ズボン（後ろ側）



▲後ろ膝付近の折り目部分に破損が生じている



品質表示	55%
表地	モヘヤ
	ウール
	45%

▲モヘヤを使用していると判断できる表示

- 品名…ズボン
- 素材…モヘヤ55%、毛45%
- 取扱表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブラー乾燥、ウールプレス仕上げ

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。
全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」

クリーニング
処理方法
に注意

素材
特性
に注意